

学ボラだより

第22号

出来る人が・出来る時に・楽しくボランティア
子供達が待っています

このコーナーは児童の皆さんも家の人といっしょに読んでください。むずかしい漢字がいっぱいありますが挑戦してみましよう。

季節は冬

十月二十七日、大変寒い朝にビツクリした人もいたことでしょう。北極からの寒気が一気に流れ込んで来てすっかり冬の寒さになってしまいました。谷川岳や武尊山なども頂上付近が雪で白くなりました。谷川岳山頂近くにある肩の小屋の管理をしている方の話では、今年の初雪は昨年よりも七日早かったそうです。夏の猛暑から考えると季節の進みは信じられないほどの速さがある事がわかります。

冬といえばスキーやスノーボードを楽しむ季節ですが、インフルエンザにも十分気を使う季節でもあります。手洗いやうがいをしつかりして、病気にも寒さにも負けずに、毎日、元気良くすごしましょう。



特集

朗読入門

朗読と言えば、本を読んで人に聴かせることですが、今回の特集は、書かれた内容を意味どおり伝えるにはどうしたらいいのかを解説します。

親子の時間の本読みや、読み聞かせの時間に活用してください。

〇意味を伝える

皆さんは、朗読というという声で感情豊かに朗々と読むことだと思っていないでしょうか。そんな中で、私の声は良くない、感情をつかめない、だから人に読んで聞かせるのは苦手と言う方は多いと思います。ちよつと待ってください。朗読は、決していい声も、舞台役者さんのような感情豊かな表現も必要としません。では、いったい何が必要かといえますと、本に書かれていることを意味どおりに伝えることが大切なのです。次の文章を見てください。

今日は朝から雪が降っています。

緊急の措置をとる必要がある

しゃべったら一秒程度の短いセンテンスです。多分しゃべる

時は、音の強弱やイントネーション、感情などは考えずに素直に声に出しているはずですが、ところが、文字になったものを声で相手に伝えようとする途端に急に力が入ってしまつて、まとまった意味として伝わらなくなるのです。

それは、文字を見た瞬間に「音」に変えようとするからです。漢字がどうだとか句読点や句点を気にしてしまうのです。しゃべる時は、しゃべる意味があります。そして意味を伝えようとしているのです。

〇話のつづき



では、本を読む場合で意味を伝えるにはどのようにしたらいいのか、と言うことに突き当たります。

次の漢字を見てください。

箸 橋 端

どれも読みは「はし」です。しかし意味は全く違います。本を持って読んでいる人は漢字を見ているから状況を把握できますが、聞いている人は、ちよつとした違いで意味が伝わらな

い文になつてしまいます。

話をするときには「今日、どここの端っこでさ、橋を渡る順番を待ってたら、お弁当の箸がついてね」と息と勢いを使つて意味を伝えているはずですが、このように話をするときの息を朗読のときにも使います。

〇実際に読むのか

では、朗読を行うにあつてどのようにするのかを流れて見てください。

一、読んで聴かせたい箇所が決まったらじつくり黙読をします。この時に段落や場面転換、意味を十分に捉えます。

二、素読みをします。この時には聞かせるための声ではなく、ボソボソとした声で相手に語りかけるようなつもりで読みます。さらに「間」も考えます。

三、次に、朗読用の声で読んでみます。この時に再度、意味と間を考えます。

〇大切な「間」

本を読んで聴かせる時に大切なことは「間」です。

これは人間の脳がもつ生理学上の事でもあるのですが、間がないと前の文章の意味を理解できなまま次に進んでしまい、益々内容が分からなくなつてしまふということがおこります。さらに場面転換では大きな間を

使つて「ここから場面が変わるんだ」という事を聴いている人に分からせます。次号へ続く。

ボランティア報告

今月行った学習ボランティアは次のとおりです参加者の敬称略

●十月六日から くらた実習甲

五年生ミシン補助

ミシンを使ってエプロン作りに挑戦しています。ボランティアは、しつけの方法、まち針の使い方、ミシンの下糸・上糸の使い方などの学習を支援しました。



(参加者)

中澤文子・稲垣美智代・小林米子
牛口てる子・丸山照代・金井昌子
高橋由美子・吉沢ヨシ子

●十月十七日

グリーンカーテン撤去

まだ花の残っているアサガオのつるを片付けました。今までに校舎の屋上まで伸びていました。撤去した量はなんと小型トラック一台分も有りました。

(参加者)

齋藤光・山口正・海沢幸美・加賀美勉・登坂一彦・小野塚止樹
小嶋貴一・北澤昇・大竹秀子・中澤勝・中澤明美



●十月十二日から二十一日 沼田中学校書写指導

一年生の国語の時間に行われた書写の学習の支援をしました。今回は五クラス。テーマは「行書で書く」です。落ち着いた空気の中で真剣に取り組む生徒の姿が大変印象的でした。



(参加者)

高橋由美子・山口有希・相良賢一

●十月二十日

養護学校沼田分校のめぐり

今にも降りそうな天気でしたが全員が赤く色づいた、おいしそうなりんごを楽しく取りました。(参加者)

大竹秀子・大竹喜子

●十月二十六・二十七日

回遊遊覧ペンキ塗り

今回は、サッカーゴールのペンキ塗りを行いました。錆だらけだ

ったゴール枠もあつという間にきれいになりました。また、作業に参加してくれた方の奥様がお焼きなどの差し入れをしてくるなど、和気藹々のいい雰囲気でした。



参加者

大坪昇作・馬岡清一・吉澤米吉・川邊昌一・高橋 完・田村久夫・阿部雄一

ボランティアの感想

沼中書写指導に参加して

今回の書写ボランティアに参加させていただき、私自身とても緊張と不安でいっぱいでしたが、先生方に優しい言葉をかけていただいたおかげで、楽しく授業の仲間入りをさせていただく事が出来ました。何よりも、たくさん生徒さん達が真面目に私の話を聞いてくれ、うまく書くことができた嬉しさにしているのを見て、私の方が嬉しくなりました。少しの間でしたが、私にとって貴重な体験になりました。ありがとうございました。高橋由美子

『地域と学校のパートナーシップ 推進フォーラム』より

十月二十七日、川場村文化会館において沼田市教育委員会主催の『地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム』が開催され、沼田東小学校学習支援センターは事例発表をしました。

フォーラムの内容は日本大学教授の講演会と沼田東小学校の事例発表でした。

事例発表は、大竹と学者連携担当教諭とで行いました。発表内容は、沼田東小学校は地域の方からたくさん協力をしていただき、授業のサポート、校外学習のサポート・環境整備など・実際の活動の様子をパワーポイントで写真を見てもらいながら、説明をしてきました。東小の特色である「夏休みわくわく体験活動」についても地域の方がボランティア講師をして支えてくださっていることを強くアピールしてきました。

日本大学文理学部教育学部の佐藤晴雄教授の講演会では今、地域の人の力を借りて行っている学習ボランティアの必要性や、地域の人が入る事によって「いじめ」「不登校」「学級崩壊」が減ってきた学校の話など、興味深い話を分かりやすく解説していただきました。これは、まさに沼田東小学校で実証済みだと思いました。

学習ボランティアが参加して

いる学校では学力調査の得点が高いなどメリットが多いということも見逃せない点でした。地域の人の目は子供達を守るのに役にたっています。そして、たくさんのもをもっている地域の人は学校から必要とされています。

沼田東小学校は地域の方の協力によって、学習ボランティアや環境ボランティアが充実し理想的な環境にあります。これからも地域の協力を頂きながら、東小の子供達が健やかに成長することを見守り、地域の方の生涯学習の場として活用してもらうために学習支援センターが更なる稼働がなされることを希望しています。

コーディネーター・大竹秀子

フォーラムに参加して

今回のフォーラムに参加させて頂く前は、テーマから内容を理解できるかとても不安でした。又普段の生活の中で学校と地域の繋がりは『大切だろうなあ』と漠然としたものはあっても、その必要性や重要性、どんな結果があるかなど深く考えたことはありませんでした。

そんな中、大学の先生のお話は専門的で教授ならではの知識をたくさんお聴きすることが出来ました。分かりやすい言葉や実例を交えてのお話だったので、難し

くどらえていた私にも理解でき、地域ボランティアの活動が、子ども達の精神的なサポートや成績向上に繋がっているという結果にとっても感動しました。

東小の事例発表は、我が子を含め子ども達がたくさんの方々に支えられている事と、その機会が多さに素晴らしいと感謝を改めて感じています。

フォーラム前の不安は消え、情報や知識を頂いたので、参加させて頂けたことに今は感謝しています。海沢幸美

日が短くなりました。夕方、暗くなるくらいに家に帰りましよう。

学習ボランティア地域センター連絡先

沼田東小学校学習支援センター内

〒378-0053 沼田市東原新町 1801-1 電話 0278-23-1118

学ボラだより 第22号 発行 平成22年11月10日

発行責任者 ボランティアコーディネーター

相良賢一 電話 070-5071-9962

大竹秀子 電話 090-5413-6130

学ボラだよりは、東小のホームページからも見る事が出来ます。